オンライン園見学 3.4.5 歳の環境
第 54 回保育環境セミナーより

第２１７号　２０２１年４月２６日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ　奥山卓矢

オンライン園見学（3.4.5 歳の環境）

今回は第 54 回保育環境セミナーのオンライン園見学より、
新宿せいが子ども園の 3.4.5 歳の環境のポイントなど、
職員の森口先生が園内を案内した際の内容です。

3.4.5 歳で園児が約 90 名近くいます。今 80 名程が散歩へ行っています。ゾーン表で特徴的なことは、フレキシブルゾーンです。ここは柔軟なゾーンで、紙飛行機や駒などが流行った時に 3 階のフレキシブルゾーンを子どもの活動に柔軟に出来るように、子どもが流行っているものを拡げるような場です。

ブロックゾーンを見てみましょう。ブロックゾーンですが丸い絨毯が特徴的で、ここの上に置いてあるものは片付けなくてもいい。途中のものは、とっておいていいようになっています。マットはドイツでも敷いてありましたが、これは防音効果のためで、ブロックは崩れたときに大きな音が鳴り、子どもが盛り上がってしまうことがあります。テンションが上がって落ち着かず、ケガにならないように絨毯を敷いて音を軽減する効果があります。毛羽だってないのでブロックも高く詰めます。子どもを落ち着かせる材料、環境です。

ピーステーブルです。子どもが自分でケンカを解決する話し合いをする場です。ここは自分たちで解決できる子が来ます。先生も解決できる子をここに促します。子どもたちで行うと言いたいことを言って、笑い合って終わります。大人が入ると、どっちがいいか悪いか、白黒つけてしまうが、手を出してはいけないが大事なのは、どうやって解決していくかが大事なので、それを経験できる場所かなと思います。先生が間に入ると、ごめん

ねして終わりましょうとなるが、子どもに何の力が付くのかがあるため、子ども同士で解決することが大事です。

STEM（ステム）と書いてあるが、ここは科学ゾーンです。悩まれる人が多いと思うが、僕たちも今厚くしようと思っているところで計画中ではあるが、匂いを嗅げるものや入浴剤を入れるとローズの香り、ペットボトルの中にビーズを入れて静電気を起こせる玩具などを用意しています。広い意味では科学で生物科学です。生き物がいたり、クワガタやカタツムリなどがいます。

ゲームパズルゾーン。基本的にゲームは子どもたちが協力して、課題に取り組んでいくものを意識して置いています。協力して逃げていくボードゲームやパズルなどのゲームができるようにしています。こちらがごっこゾーン。ごっこ遊びが大事にということを藤森先生もされますが、ごっこ遊びはイメージを共有しないといけない。相手も共有しないとできないので、相手のことを察することや思いやり等の力が育って行く部分かなと思います。そのため充実させておく必要があるかなと思います。ベッドは気持ちをリラックスできるよう場を設けています。病院ごっこをしたり、色々なごっこ遊びをしています。奥にＰＣがあったり、ごっこももう少し厚くしたいと思っています。

伝承ゾーンです。伝統な遊びめんこやダルマ落とし、投扇興・駒などがあったり、プラス異文化的な物を取り入れようと多文化を感じられるように世界の子どもたちの絵本があったり、世界の国々があったりしています。世界の国々の国旗や挨拶のカードもあります。

食事をするスペースだが、職員の数が少ないからここを制作ゾーンにしちゃおうかということもあります。ドイツに合ったものを職員が作ったが、その月と日にちが分かります。今日はいつで、明日・昨日という感覚を伝えていくことは大事なので、分かりやすく朝の会や帰りの会で振り返るきっかけになったらと思っています。3 階に行きましょう。階段を通って上に行きますが、子どもたちも行き来は自由です。階段であまり怪我はあまりない。危ないところは気を付けています。01 の動と静と同じく、3.4.5 歳の部屋も 3 階は静かに遊べるようなゾーンを置いています。メリハリをつけることが大事です。今は布団を敷いているが、月曜日なのでシーツを貼り返ったところですが、普段はこの時間は布団を敷いていません。

あとからつけたものだが、はしごを垂らしたり、ボールを垂らしてゆらゆらして体幹を鍛えられるようにしています。筋肉ではなく体幹を鍛えられるようなものを置いています。制作ゾーンになります。色鉛筆やハサミが取り出せるようになっています。粘土や廃材を遣えるようになっています。子どもの作品が飾ってあることで、他の子が他の子の刺激を受けます。あの子みたいにこんな風に塗りたいなとか、きっかけになってきます。保育はきっかけづくりが大事かなと思います。きっかけを用意することで、子どもはきっかけを通じて学んでいく。ゾーンもきっかけづくりが大事かなと思います。

60 人から 90 人に定員が増え、90 人でお集りは難しいので、お集りと食事は 2 階と 3 階で分けています。3 階で食事をするのは静かに食事をしたい子。声が大きかったら静かにしなさいと言いやすいです。朝の会、帰りの会はグループが決まっていますが、あとは自由です。文字数を体験出来るものが置いてあったり、数の概念が体験できるよう 1 分、3 分、10 分の砂時計などを置き、タブレットで遊んでいるが砂時計が落ちたら交代とか言ったりしています。3 階は片づけのドラの合図で、2 階は仏具のおりん。片付けの時に音でお知らせをします。片づけるかのタイミングは、子どもたち

に任せています。「片付けだよー」と少し言うが、時間を知らせてあげる。片付けだから、片付けなきゃとか、ここまでしたら片付けるというのを、子どもたちが選べるように、子どもの主体性を大事にしています。

こちらは絵本ゾーンです。ここは個別の学習塾みたいに仕切られています。モンテッソーリ、フレーベルの恩物も置いてあります。大人数の関わりも大事にしていますが、一人で出来るような時間も大切にしています。一人で遊ぶようなものもあります。

こちらは茶室です。ここもメリハリの一つ空間で、定員が増えたことで落ち着かないこともあるだろうと、この中に入って、お茶や食事をする。体験を通じて子どもに静かになってもらう環境。あくまで、環境を通して子どもたちを教育していくことで、静かにしてということもあるが、大人から言われてやることではなくて、環境を通じて大事にしてもらう例かなと思います。

■参考著書

『ＭＩMAMORU　見守る保育 』(Ｇａｋｋｅｎ保育Ｂｏｏｋｓ)
著者：藤森平司
出版社 : 学研プラス (2010/10/13)
発売日 : 2010/10/13
内容：
実践から提案する保育カリキュラム。こどもの自己成長能力を信じ、こども同士の関わりと、こども自らの選択による活動を保障する、「見守る保育」の環境づくりが丁寧に解説されている。保育・幼児教育の課題発見、「保育の質」の向上へのヒントとなる一冊。

『0・1・2 歳の「保育」』 (見守る保育２子ども同士の関係から育つ力)
著者：藤森平司
出版社 : 世界文化社 (2012/8/24)
内容：
保育園・幼稚園など保育者に向けた理論書です。認定こども園の拡充、待機児解消など、これからの保育の流れの中で一番注目を集めるのが０・１・２歳児の保育です。この本では、従来重要とされてきた「特定の保育者と子ども二者間の信頼関係」ではなく「子ども同士の関係性」を基本とした新しい乳児保育を提案。なぜ、そうあるべきかを豊富な写真と平易な文章でわかりやすく解説します。